



鎮守の森だより

NPO法人社叢学会ニュース

第51号

2011年5月1日

東日本大震災と社叢の修復

NPO法人社叢学会理事長 上田 正昭

去る3月11日の午後2時46分、東日本大震災が起こった。マグニチュード(M)9.0、予想をこえる大津波、加えて福島第一原発の事故による放射能汚染、それらが複合しての史上まれにみる大震災となった。

明治29年(1896)と貞観11年(869)の三陸沖大地震と大津波のメカニズムをあわせもち、それに人災ともいべき原発事故が重なった大被害である。亡くなった方、行方不明の方、避難の苦しみを日々つづけている方、その数はおびただしい。

東海・東南海・南海の連動地震も予測されている。ひとごとではない。今こそ、西日本は団結して東日本を救援すべきである。不幸にしてこの世を去られた方々に痛恨の想いをいたし、西日本あげての東日本復興に寄与したい。

大地震と大津波による神職や僧侶の訃報もあいつぎ、社寺そして社叢の被害もまた甚大である。京都府神社庁からの連絡で、ただち

に義援金をお届けしたが、こころある氏子や檀家の方々にも救援をよびかけたい。ささやかでもその絆はやがて太くなり強くなる。

関西という用語が史料にみえるのは、『吾妻鏡』の治承4年(1180)10月21日の条からであり、たとえば建仁3年(1203)の8月27日の条には、「関西三十八ヶ国」と記す。多くの識者が「関西よ起ちあがれ」とよびかけている。いところの関西はイコール近畿である。

古代以来、畿内および近国の用語はあったが、近畿という用語が使われるのは、明治36年からであり、本来の関西は三十八ヶ国であった。九州などを除く西日本が関西であったといつてよい。九州・沖縄を含む西日本が起ちあがるべき時である。

社叢学会では、東日本大震災で被害をうけた社叢を調査し、その修復を支援したいと計画を進めている。会員各位のご協力をお願いする。

平成23年度年次総会研究発表・シンポジウム

今年のテーマは「社叢学会の10年の歩みと展望」

見学会では上田篤副理事長が鎌倉七口について解説

5月29日(日)に鶴岡八幡宮で開催される今年の年次総会・研究発表界・シンポジウムの概要が別紙(3頁)の通り決まりました。研究発表では鶴岡八幡宮の大イチョウの修復に取り組む濱野周泰理事が現状と見通しなどを報告いたします。また、シンポジウムでは設立から10年目を迎える社叢学会の歩みとこれからの議論いたします。

28日(土)には大イチョウ修復現場の見学の後、上田篤副理事長の解説を聞きながら鎌倉防衛の拠点でもあった七口のいくつかを巡る見学会も開催いたします。奮ってご参加下さい。なお、正会員で総会にご欠席の方は必ず委任状をお送り下さい。



琵琶湖国定公園竹生島の照葉 樹林とカワウの共存を考える

—宝厳寺と都久夫須麻神社の社叢の変遷と未来—

講 師 前迫 ゆり (大阪産業大学教授・社叢インストラクター)
コメンター 養父志乃夫 (和歌山大学システム工学部教授)
野間 直彦 (滋賀県立大学環境科学部講師)

形態が違う寺と神社の社叢 竹生島(滋賀県長浜市)には宝厳寺(738年 聖武天皇の命により僧・行基が開創 弁財天を祀る)と都久夫須麻神社がそれぞれ社叢を保持しているが、明治初期の神仏分離令以前は神仏習合の信仰が行われ、都久夫須麻神社は宝厳寺と一体化し、寺と神社の区別はなくなっていた。たびたびの火災で堂宇・社叢共に消失しており、1558年には森全体が消失したと記録があることから、現在の社叢は500年前に焼けて再生した森であると言える。宝厳寺社叢は照葉樹林であるタブノキ林であるのに対して、都久夫須麻神社社叢はスギ・ヒノキの人工林で、これは対岸の早坂村との関係だと思われる。一般に、寺は境内地が改変されることが多いが、ここでは寺のほうに本来の森が残されているという、ほかとは少し違った形態が確認できる。タブノキ林は日本海側に見られることが多く、湖岸とはいえ内陸部の滋賀県にタブノキ林が残されていたことは興味深い。竹生島のタブノキ林も1970年代初めに発見されたもので、冬は対岸の長浜市より積雪が少なく、温暖多雨であると思われることから、気候条件もあっているのではないだろうか。

カワウが爆発的に増加 1975年以前にはカワウはほとんどいなかったと思われるが、1880年代の史料に、村人が鳥の巣から卵を盗んだことに対するわび状が残されていることから、サギ・ウなどが営巣しやすい環境であるのかもしれない。2004年から滋賀県が調査を行っているが、現在、3~4万のカワウが確認されている。1982年にコロニーに5巣確認され、1990年には400巣だった。現在は4万羽、多い時で7万羽と言われているのだから、爆発的に増加したといえるだろう。2005年には全山が崩壊状態で、営巣時に、巣の材料として枝を折り取ることや、フンによって土壌が栄養過多状態になっていることが枯死の原因であると考えられている。

被害が深刻なのは斜面で、タブの立ち枯れで土壌が流れて林床がなくなり、実生が定着しなくなった結果、壊滅状態になっている。土壌流失を止めなければならぬが、傾斜が急で非常に難しい。土壌のphも変化しており、営巣地はph3.9、巣のないところでは4.5と、かなり酸性度が高まっている。

植物生態も変化 植生調査をしたところ、高木層はタブノキ、亜高木はシロダモ、低木にアオキ・ヤブツバキ、林床にはチマキザサという滋賀県特有のものであった。植被率をみると、1985年には80%だったのが2005年には20%に低下し、ようやく森が成立しているという状況になっている。高木層で大きく低下し、草本が増えているのだが、これは林冠がなくなったためであると思われる。カワウ被害の箇所では林床にヨウシュヤマゴボウが確認されているが、これは林冠部が

空いて明るくなると生えてくる高室素性植物である。ただ、林床には多くの実生が生育していることが確認されていて、これは種子の供給があることを意味する。尾根筋には自然の照葉樹林が残されているのだから、植林ではなく、これらの実生を生かすことで森林再生ができないかと考える。

これまで多くの対策を試みてきたが、効果的なものがない。ただ、立ち枯れていると思われたタブで胴吹き(幹から直接葉が出る)が確認され、枯れてはいない個体があることがわかった。これは銃によるカワウ駆除の結果、生息数が減ったことによるものではないかと思われる。現在、尾根に林として残っているものは遺伝資源として貴重であり、これを崩さないように、使いながら森林再生したい。

滋賀県の自然は日本の自然の典型 滋賀県は本州の真ん中にあり、東西・南北の境目で、北半分は日本海側気候で伊吹山は雪山の南限で巨大な里山と言える。淡水湖と湿地が自然条件を形成しているが、陸地のほとんどは2次林から転用された水田で、日本の自然の典型ともいえる。この自然が危機を迎えている。湿地や里山が減り、残っていてもその中身が変わっている。カワウのようにあるものが劇的に増加する一方で多くの動植物が絶滅していつている。カワウの問題は滋賀県でも再重要課題と認識されている。現在、衰退した森の回復方法を検討している。1995~96年にはタブやタラノキの植林をしたが、生き残ったものが少ない。タブは明るすぎても暗過ぎてもダメで、植えて森をつくるのは難しい。土壌流失が最大の問題で、カワウによって裸地になり、イタドリなどが生えているところが林になるのは無理ではないかと思う。これをどうするかは検討課題で、外来種でも何でも植えればよいという乱暴な案はさすがに採用されないだろうが、地域に相応しい森林再生のために意見を言ってほしい。

山を使え! カワウ被害は竹生島だけではなく、各地で広がっている。水辺の山、特に里山の土地利用が変わってきたことが根本的な原因で、ここを解決しなければ、カワウ問題は解決しない。里山は薪炭林として常に人が立ち入り、20~25年に一度は伐採されていた。カワウは人の立ち寄らないところに住むのだから、手入れされた里山にはいなかった。竹生島でも人の入りにくいところに多く営巣している。川と人、人と里山・山との関わり方の変化が原因といえる。

江戸時代にはタカの餌場としてのサギ山を保護していたことからわかるように、猛禽類やキツネ・イタチなど、ウやサギの天敵が激減したことも原因だ。こうした根本原因を考えると、植樹などでは問題は解決しない。唯一の解決法は山を使うということだ。



平成23年度年次総会の概要



懇親会・エクスカージョンに参加ご希望の方は、5月21日(必着)にて、下欄ご記入の上、FAXもしくは郵便にてお送りいただくか、同内容をMailにてお知らせください(すでにお知らせを頂いた方は、重ねていただく必要はありません)。

	時間	内容
5月28日(土) 見学会	12:30	鶴岡八幡宮休憩所前テント集合
	13:00~	鶴岡八幡宮正式参
	13:30~17:00	鶴岡八幡宮および同社叢見学・鎌倉散策 上田篤副理事長が「鎌倉七口」が秘める要塞都市鎌倉の戦略について解説！ 修復中の大イチョウや鶴岡八幡宮境内を見学した後、交通の要衝であった「鎌倉七口」を散策します。
	18:30~	一宮研究会：於 ホテルメッツかまくら大船駅前会議室
29日(日) 総会・研究発表・シンポジウム・懇親会	10:00~10:45	年次総会
	10:50~12:30	研究発表 ・鶴岡八幡宮大イチョウの修復について 濱野周泰 ・自然教育園におけるシュロの成長・枯死と他の樹種との関係 —都市内孤立社叢林の管理を踏まえ— 亀井裕幸 ・地球環境基金助成金調査報告
	12:30~13:15	昼食
	13:15~17:00	シンポジウム「社叢学会の10年の歩みと展望 ～社叢保全・育成のさまざま」
	14:50~15:30	基調講演 藺田 稔・社叢学会副理事長
	15:40~17:00	パネルディスカッション パネリスト：茂木 栄・社叢学会理事(気仙沼・室根山の森づくり) 上田昌弘・社叢学会理事(向日神社の社叢復活) 正木伸之・社叢学会正会員(小國神社の社叢育成) コーディネータ：藺田 稔・社叢学会副理事長 モデレータ：林 進・社叢学会副理事長
17:30~19:00	懇親会 於 鶴岡八幡宮境内 風の杜	

----- 研究発表・シンポジウムと関連行事参加申込書 -----

FAX：075-212-2916

* ご希望の行事の() 欄に○をおつけ下さい。同伴者がいらっしゃる場合は人数をお書き下さい。

- () 鶴岡八幡宮社叢等見学会 (無料 一部、入場料などを頂くことがあります)
- () 研究発表およびシンポジウム (非会員は1人500円) : 同伴 人
- () 懇親会 (1人3,000円) : 同伴 人
- () 一宮研究会 (無料)

会員番号

お名前

電話番号・Mailアドレス等当日連絡先

鶴岡八幡宮：源氏の守護神として1063年(康平6)に、奥州を平定した源頼義が、京都石清水八幡宮を勧請して鎌倉由比郷に社殿を造営したのにはじまる。ご祭神は応神天皇(八幡大神)・比売神・神宮皇后で、宇佐神宮、石清水八幡宮と共に、日本を代表する八幡宮と言われている。現在地に遷座し、武門の神社としたのは源頼朝で、1182年(寿永1)には妻政子の安産祈願のため、社頭から由比ヶ浜まで土を盛り上げて参詣道とした。現在は桜並木で有名な道となっている。1191年(建久2)に大火で社殿のほとんどを失ったが、ただちに再建に取り掛かり、8カ月後には正式に石清水八幡宮から神霊を迎えて鎮座、これをもって鶴岡八幡宮の創建と定めている。源氏の氏神というだけではなく、政権がかわっても武士の守り神として信仰を集めた。現在も、鎌倉観光のシンボルとして多くの参詣者が訪れている。(参考：『神社紀行37 鶴岡八幡宮』 学習研究社)

大イチョウ：樹齢800年とも1000年余ともいわれる鶴岡八幡宮の御神木。1219年(建保7年)1月27日、2代将軍・源頼家の子で八幡宮の別当を務めていた公暁がこの銀杏の木に隠れて待ち伏せ、3代将軍・源実朝を殺害したという伝説があり、隠れ銀杏という別名がある。1955年に神奈川県天然記念物に指定され、鶴岡八幡宮のシンボルとして親しまれていた。2010年3月10日早朝に、折からの強風のために根元から倒れた。かねてより社叢管理に助言を行ってきた濱野周泰・社叢学会理事(東京農業大学教授)が直ちに修復作業に入り、大イチョウを3つに切断、根元から高さ4mまでを7m離れた場所に移植、元の場所では残された根からの発芽を待つ、さらに挿し木による苗木の育成という対策がとられ、若芽が確認されるなど、今のところ順調に経過している。

鎌倉七口：鎌倉は三方を山に囲まれ、南は海で、防御には強いが外部との交通は不便であった。鎌倉幕府の成立と共に都市がつくられ、それに伴って谷の間に最小限の切り通り道が掘削された。鎌倉七口と呼ばれるようになったのは江戸時代で、京都七口を模したといわれる。名越切通し(大町～逗子)、朝比奈切通し(十二所～金沢)、亀ヶ谷坂切通し(扇ヶ谷～山ノ内)、化粧坂切通し(武蔵大路の一部)、巨福呂坂切通し(雪の下～山ノ内)、大仏切通し(長谷～深沢)、極楽寺坂切通し(極楽寺～坂の下)で、比較的旧状を残しているのが朝比奈切通し。(参考：『神社紀行37 鶴岡八幡宮』 学習研究社)



鶴岡八幡宮HPより

次回予告【第45回関東定例研究会】

- ◆日 時：6月18日(土) 14:00～16:30
- ◆場 所：國學院大学・渋谷キャンパス120周年記念1号館3階1304教室
(東京都渋谷区東4-10-28)
- ◆テマ：インドネシアでの国立公園の運営と環境教育の実践に携わって
- ◆話題提供：建元喜寿(筑波大学附属坂戸高校教諭)



大和から移住した関鍛冶の 守護神・春日神社の社叢

話題提供 伊佐地 金嗣（春日神社宮司）
ｺﾝﾈｸﾀ 林 進（社叢学会副理事長・中部支部長）

関鍛冶の守護神 今回は、名刀「関の孫六兼元」や「和泉守兼定」で有名な刃物の町、岐阜県関市にある春日神社を訪れた。関市は安桜(あさくら)山を中心に周辺に市街地や神社仏閣が広がり、養老年間には長良川沿いに「東山道」があり、当地に「濃州関所」が設けられていたことに名が由来する。西隣は織田信長が天下統一を企てて改名させた「岐阜」で、現在の日本の「人口重心」も関市内にあり、関東と関西を分ける日本の岐路の関所である。東隣の加茂郡富加(とみか)町羽生(はにゅう)は、奈良東大寺正倉院に残された現存する日本最古の戸籍である大宝2年(702)「御野(みの)国加毛(かも)郡半布里(はにゅうり)戸籍」に記載された古くからの町である。

関には、鎌倉時代に大和の国(現・奈良県)から多くの鍛冶刀工が移り住んだ。大和鍛冶の出身者の金重と兼永は関鍛冶を総代して奈良の春日大明神を勧請し守護神として春日神社を正応元年(1288)に創建したと棟札に残る。同時に奈良・信貴山千手院も一緒に来たこと、当地の千手院(関市西日吉町)に記録がある。

刀鍛冶には、「砂鉄3里」「炭山8里」の周辺環境が必要で、さらに焼入れ用の良質な水と焼刃土も。現在、刀匠は18名で、月に2本。注文があると2-3本同時に打ち、良い方を出す。1本百万円位で売れ、3年後位まで注文があるそうである。関鍛冶は、藤原氏の末裔の証しとして、始祖「中臣鎌足」の「鎌」の字の篇と旁を分けた「金」か「兼」の一字を名前に入れている。

春日神社の社叢 昭和34年(1959)の伊勢湾台風によって、大樹に覆われた神域の巨木のほとんどが倒れ、本殿・能舞台(市重文)等の建物も損壊した。その後の復興によって建物は再建されたが、樹木は再生が遅れている。平成3年(1991)の台風18・19号でも100本位倒れた。管理には、伐るのに百万円、材にして売るのに20万円の経費がかかる。杉をチップにするのに4t車で満載で3万円では売れなかった。その中で、春日大社から移植されたマキ科の常緑高木「ナギ」などの常緑樹が緑量を増やしている。

国重文の能衣装・能狂言面 拝殿の前に木造銅板葺

き切り妻造り(室町様式、建坪13坪、以前は桧皮葺)の能舞台があり、毎年正月28日の例祭日に祭事能を行い、東横の「扇の芝」(扇型に広がった芝地)からの観能が行われていた。宇治・平等院の中庭にも同様の芝地がある。現在は春祭り(4月第3日曜15時~)に、餅を食わせて鬼退治をする県無形文化財の古典神事芸能「童子夜行(どうじやこう)」が行われている。鏡の間から舞台への橋掛りは祭礼時に掛けられる。

昭和31年(1956)に能装束61領が、平成22年(2010)に能狂言面類61面が国重要文化財に指定された。能装束10領は国立博物館に、残りは境内の神宝殿に納められ、毎年10月第2日曜の刃物まつりに合わせて公開される。えくぼのある女系狂言面は貴重で、世界中で展覧される。室町時代の日明貿易で30万振りの日本刀が輸出され、見返りに絹が輸入されて能装束が造られた。その後、刀工孫六兼元等の登場により関の刀鍛冶が日本全国に知られることとなり、富の蓄積によって例祭りが盛んになった。しかし、江戸時代に入ると刀が売れなくなり、能ができなくなったと言われている。

文責：岡村 穰



次回予告【第31回中部定例研究会】

- ◆日時：2011年6月15日(水) 13:30-16:00
- ◆集合場所：大山田神社社務所(長野県下伊那郡下条村大字陽阜字宮ノ腰4588)
- ◆テーマ：式内社大山田神社の社叢・ツリークライミング®等による管理
- ◆話題提供：熊谷 睦男・大山田宮司 林 和弘・飯伊森林組合長(予定)
- ◆ｺﾝﾈｸﾀ：林 進(社叢学会副会長・中部支部長)

4人の社叢インストラクターが誕生！ 総会で理事長が認定証を授与

先に実施された第4回社叢インストラクター資格認定試験の結果、資格取得に挑んだ4名が認証基準を超えると認められ、3月12日の第29回理事会で資格を認定された。

受験は第1回から第5回までの社叢インストラクター養成セミナーを修了し、地域での社叢管理や社叢学会の定例研究会・総会シンポジウムを聴講するなどの経験を積んだ者に認

められ、今回は4名の正会員が受験した。

試験終了後、試験委員が直ちに採点し、それぞれ資格に恥じない知識・経験を認められ、全員を合格とする意見を理事会に諮問、原案通り認められた。4人の合格者には、年次総会で理事長より認定証が手渡される。

合格者は以下の通り（順不同・敬称略）：有田和實、増井啓治、立花武志、鈴木明子

事務局から

- 会員の皆さま方におかれましてはご無事でいらっしゃいましたでしょうか。また、お身内やお知り合いが被災された方、併せてお見舞い申し上げます。この春は一入、当たり前の日常のありがたさ、桜の美しさが心にしみるような心地がいたします。
- 平成23年度(2011年4月～2012年3月)の会費の振替用紙を同封いたしました。払い込みには銀行振り込みもご利用いただけます。三菱東京UFJ銀行 京都支店 普通口座6720345 特定非営利活動法人社叢学会 理事長 上田正昭 です。学会活動を円滑に運営するためにも、会費の納入方、よろしく願いいたします。入金の確認をいたしましたら、会員証をお送りいたします。
- 家電エコポイント対象製品の購入期限は3月31日で終了しましたが、申請受付は5月31日、ポイントの交換期限は2012年3月31日までです。また、住宅エコポイントは今年12月31日まで

延長され、ポイント発行対象も拡充されています。景品交換後に残った端数のポイントは、ぜひ「環境団体へ寄付」を選択いただき、寄付先に社叢学会をご指定ください。また、昨年度にご寄付を下さいました皆さま、ありがとうございました。

編集後記

節電かあ。。。 **任せなさいっ！！** この事務局、1年間の光熱費(=電気代)が何と！ 1万円を切っているのだ！ どうだ！ 参ったかあ！

節電の秘訣ですか？ 簡単なことです。電化製品を持たない。なければ使いたくても使えない。ははは、これほど簡単なことはありません。今、あるのはパソコンとプリンターと電話。それに電気ポット(使うのは特別な来客(=お菓子持参のヒトとか。。。)の時だけ!)とちっちゃなトースター(これも使用頻度極低)。蛍光灯はほとんど点けない(壁全面ガラス張りなもんで明るいよ)。エアコンは、、、できるだけガマン！

ほとんど、省エネ耐久レースかつ。そうそ、もひとつあるんだ。冬季のみ使用可能な冷蔵庫。はい、ご明察。窓の外のエアコン室外機の上です。よく冷えるのよ、これが。(藤岡 郁)

鎮守の森フォトコンテスト作品募集

締め切り間近！ 5/15です！

4ツ切サイズの紙焼きにして事務局にお送りください。

送り先：〒604-8115京都市中京区雁金町373番地みよいビル303号

問合せ：Tel 075-212-2973 Fax 075-212-2916

E-Mail shasou@ams.odn.ne.jp

発行人 社叢学会事務局 〒604-8115京都市中京区雁金町373番地みよいビル303号

TEL075-212-2973 FAX075-212-2916

URL <http://www.shasou.org> E-Mail shasou@ams.odn.ne.jp

社叢学会関東支部 〒368-0041 秩父市番場町1-1 秩父神社社務所内

TEL080-1514-5032 E-Mail shasougakkai@hotmail.com

(当面、このアドレスでお願いいたします)